

## メキシコの金利引き下げについて

2013年9月9日

メキシコ中央銀行は9月6日(現地時間)0.25%の政策金利引き下げを決めました。これで同国の政策金利は3.75%となりました。米国のQE3縮小が今月にも開始されるとの観測が強まる中、市場関係者の間では据え置かれるとの見方が多く、今回の決定は予想外でした。ただこの決定後もメキシコ・ペソには大きな変動はみられず、8月の米国雇用統計の結果を受けてドルが主要通貨に対して弱含んだ影響から対ドルでは上昇しています。

## 《利下げの背景》

この背景には①経済成長率の低下、②インフレ率の落ち着き、の2点があると考えられます。

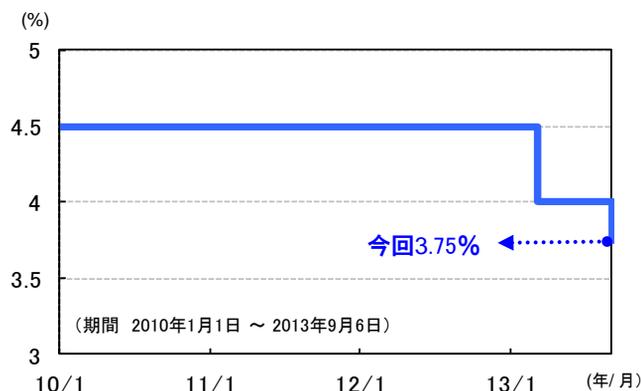
- ① 8月発表の2013年4～6月期の実質GDP成長率は前年比で+1.5%(前四半期は+0.6%)だったものの、前期比では-0.7%と2009年以來のマイナス成長に転じています。発表後、同政府は2013年の同国の経済成長率を従来予想の+3.1%から+1.8%へと引き下げています。成長率見直し引き下げの要因としては米国向け輸出の減少が挙げられています。
- ② メキシコではインフレターゲット(3.0%±1%)が導入されています。7月のCPI(消費者物価指数)は前年比で+3.47%と同ターゲット中心値近辺にあります。8月についても+3.5%程度との予想が多くなっており、現在インフレの懸念はほとんどない状況にあります。

## 《今後の景気、為替について》

景気については今後緩やかな回復に向かうとみています。足元の経済指標では主要産業である自動車は前年比で輸出台数が減少しましたが、生産、国内販売ともに季節性を考慮すれば増加基調にあり、同様に海外就労者からの送金額も回復に向かっています。また、エネルギー政策の抜本的な改革法案により、これまで国が管理してきた石油資源が民間に開放され、海外資本による開発投資の増加が期待されます。

為替レートについては米国QE3の縮小が9月に始まるとの観測が強まるにつれ、新興国通貨の下落が目立っていますが、メキシコ・ペソの下落率は限定的で、対ドルでは昨年の安値圏にも到達しておらず比較的底堅いといえます。株価が今年の1月に史上最高値を付けた後、証券投資資金の流入の減少がみられましたが、直接投資には目立った減少はみられませんでした。上昇している米国金利や他の新興国通貨の下落からみるとQE3の縮小開始は相当部分織り込まれたとみられます。同開始には米国経済回復の裏付けがあると考えればメキシコ・ペソは最悪期を脱し、下値不安は後退していると思われます。

## 《メキシコの政策金利》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

## 《メキシコ・ペソの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。